



THE Y'S MEN'S CLUB OF IBARAKI

CHARTERED 2006



茨城ワイズメンズクラブ
2014年度~2015年度
6月報 Vor. 82
強調月間テーマ

国際会長主題 : 言葉より、行動を
アジア地域会長主題: 未来を始めよう、今すぐに
東日本区理事主題 : 誇りと喜びを持って
関東東部部長主題 : つなげよう ワイズの ところ
茨城ワイズ会長主題: 「若者とともに喜びましょう！」

評 価

6月例会プログラム

と き: 2015年6月6日(金) PM 19:10~21:00
と ころ: YMCA 会館

開会挨拶と点鐘 司会 稲本 修一
ワイズソング 会長 柴川 林也

- ワイズ信条
- 1 自分を愛するように 隣人(りんじん)を愛そう
 - 1 青少年のために YMCAに尽くそう
 - 1 世界的視野をもって国際親善をはかろう
 - 1 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさとう
 - 1 会合には出席第一 社会には奉仕第一を旨としよう。

入会式 村田 淳
今月の聖句と食前の感謝・食事 ゲスト 井上 恒久

題目「これからの茨城 YMCA について」
茨城 YMCA 総主事 宮田康男

ハッピーバースデー&おめでとう結婚記念日
スマイル ドライバー 柳瀬 久美子
茨城YMCA報告 和田 賢一
閉会挨拶と点鐘 会長 柴川 林也

- 例会後
報告と協議
- ①ブルーベリーの販売について
 - ②ブリテンの東日本区 HP 掲載の件
 - ③事務会について
 - ④7月例会の日程、司会者、食前感謝、ドライバー、ゲスト、巻頭言

2014-15 年度 5月会計報告 会計: 井上恒久

4月末繰越金	109,860
5月収入	
会費	8,000
スマイル	5,000
食事代	10,000
5月支出	
講師謝礼	-5,500
東日本区区費前渡し	-88,790
ネパール災害募金	-10,080
5月末繰越金	28,990

今月の聖句

「人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。人の怒りは、神の義を全うするものではないからである。」(ヤコブ書 1章 19節~25節)

YMCA スタッフになって

坪和 千絵(ちいず)

4月から茨城 YMCA のスタッフとなり、早2ヶ月が過ぎました。大学在学中に、将来は児童クラブで働くと決意し、鎌倉 YMCA でリーダーをしていた友達に頼み込み、鎌倉 YMCA のリーダーとなったのが YMCA を知ったきっかけでした。

卒業後は、東日本大震災など様々な理由が重なり一度は諦めましたが、今回つくば市に転居するにあたり、学生時代お世話になった YMCA がつくば市にもあるということを知り、再びご縁あって YMCA のスタッフになることが出来ました。

今は、牛久センターと東新井センターの2つのセンターに勤務するという貴重な経験をさせていただき、毎日が新しい発見でいっぱいです。まったく色の違う2つのセンターに関わっているからこそ、気づけること、学べることがたくさんあるはずですよ。

5年越しの夢を叶えてくださった茨城 YMCA に感謝するとともに、1日も早く戦力となれるよう、1日1日を大切にしていきたいです。

出席者	会員 8名	メネット 0名
5月	スタッフ 2名	(リーダー 0名)
例会	ゲスト 2名	出席総数 12名
	在籍者会員数 14名	会員出席率 57%



5月例会の様子

【茨城ワイズ 5月例会報告】

1. ゲストスピーチ

題目「原発避難者支援—5年目の課題—」

茨城県内への避難者・支援者ネットワーク「ふうあいねっと」副代表（筑波学院大学社会力コーディネーター/NPOフュージョン社会力創造パートナーズ理事長） 武田 直樹

○避難者支援について

- ・設立は12年5月30日。目的は、ばらばらに避難をされている方への持続的・効果的なサポートを目指して集まり開始した。
- ・県内の支援組織（企業、茨城県、市町村、大学等）が協力している。福島県も含まれている。
- ・活動内容は、相談・困り事対応、情報誌「ふうあい」を市町村への発送、子供への学習支援、交流会の企画や支援を実施。県内で20市町村が参加している。
- ・個別訪問活動（地域の民政委員、支援者との連携づくり）
- ・特に、強制避難地区以外からの避難者は、国からの支援がなく、孤立し易いので、支援対象として対応している。

○まとめ

- ・もう少し早い段階で、交流会を実施すれば、集まる方も多かったのではないと思う。
- ・ターニングポイントとしては、避難所から、仮設住宅に移るとケアが抜けてしまい、孤立をされるケースが多くみられた。今後のポイントだと理解している。
- ・避難者の心境としては、表面的に落ち着いて見えるが、「諦め」している方も多い。

○今後

- ・避難していることを自虐的な方、声の上げにくい方（自主避難者、独居世帯、子育て世代）への代弁や支援を行ないたい。
- ・茨城県内での住民サービスを受けられるようにする（住所を福島のままの方が多いため）。住民票を移さず避難先のサービスを受けられるようにしていきたい。



2. 金丸関東東部部長による部長訪問ご挨拶

- ・部長は孤独感を感じるものなので、次々期の茨城クラブが担当する部長に対しては、クラブの応援が必要だ。
- ・茨城クラブは次年度度10周年を迎えるが、東京ひがしクラブは親クラブとして、ここ10年間、認識が不足しており申し訳なかった。
- ・過去には合同例会もあったので、10周年では合同部会等の計画をさせてほしい。
- ・茨城クラブの方には、是非関東東部の集まりに参加をしてき、横のつながりを持ち、関東東部を盛り上げて欲しい。



3. 協議の概要

- (1)ブルーベリーの販売について
 - ・販売手順や金額等の基本計画を、中村さんと宮田さんとまとめて頂く。
- (2)ネパール募金について
 - ・茨城クラブとして1万円の募金決定。
- (3)プリテンの東日本区HPに掲示する件。
 - ・皆様に承諾確認の連絡を行い、申請する方向で準備する。
- (4)ユースフォーラム（OFYとYVLF）への推薦の件
 - ・和田連絡主事より5/15までにご連絡をして頂く。
- (5)東日本区大会への参加の確認
 - ・柴川会長は欠席のため、現役員で参加者を調整。

「クラブ運営マニュアル—ワイズQ & A—」より

Q；ワイズメンズクラブとキリスト教について教えて下さい。
A；国際憲法では、綱領として、「ワイズメンズクラブ国際協会」は、イエス・キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思い

に結ばれて、あらゆる信仰の人々が共に働く、世界的友好団体であり・・・」と定めています。また、東日本区の定款においては目的の項において「国際協会の綱領に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の実践を目指し・・・」と定めています。ワイズメンズクラブは、決してキリスト教信仰や教会生活を強いるものではありませんが、その活動の基盤をなすイエス・キリストの教えやキリスト教についての理解を深めることが望まれます。

【茨城 YMCA 活動予定とお知らせ】 担当主事 和田賢一

◆5月の報告

- 7日 幼保園3歳児つぼみクラス1日保育開始
- 9日 小学生定例野外活動 つくんクラブ 池長・田島
- 4・5歳児定例野外活動 わんぱくクラブ 齋藤
- 牛久わいわい児童クラブオープンハウス宮田・大澤・久米
- 10日 中高生活動 ユースクラブ 久米
- 11日 早天祈禱会 大賀・宮田
- 2歳児ピッコロクラス開始 齋藤
- 16日 障がい児者自立支援 たんぼぼクラブ 久米
- 幼保園ディキャンプ 大賀
- 17日 高学年野外活動 トムソーヤ 池長
- 19日 職員礼拝・職員会
- 23日～24日 春のオーバーナイトキャンプ 久米
- 30日 茨城 YMCA 定期総会

◆6月の予定

- 1日 早天祈禱会 大賀・宮田
- 2日～3日 幼保園参観日
- 6日 小学生定例野外活動 わいっこクラブ 田島
- 7日 中高生活動 ユースクラブ 久米
- 12日 幼保園消防署見学
- 13日 障がい児者自立支援 たんぼぼクラブ 久米
- 14日 アドベンチャーキャンプ下見 池長
- 15日 職員礼拝・職員会
- 16日～19日 全国総主事会議 宮田
- 19日 二葉幼稚園親子体操 和田
- 19日～21日 野尻リーダーダートレーニング 久米・和田
- 20日～21日 日本YMCA 評議委員会 宮田
- 20日 東新井児童クラブ総会 池長・木村・倉田
- 20日～21日 児童クラブ高学年お泊り会 池長・木村・倉田
- 23日～25日 幼保園個人面談
- 27日野尻キャンプ久米・和田 アドベンチャーキャンプ池長
- 28日 高学年野外活動 トムソーヤ 池長

OYMCA よりお願い

YMCA 維持会員：ワイズの目的の中に『YMCA の活動を支援する』となっております。その1つとして YMCA 維持会員になっていただいております。まだ維持会員登録をされていない方は、和田までお申し出ください。維持会員とは、YMCA は会員団体であり、YMCA は会員に支えられ地域に根ざした活動を展開しております。YMCA の使命に賛同し、その運動に主体的に参与し、YMCA の維持発展に寄与することを願う会員です。

【編集後記】

書記：片山啓

最近、歴史に関する話題が、世間で多く聞かれる。教会の中でも、先日、中高生の韓国への訪問が話題となった。私達の教派内ではあるが、全国規模での中高生を対象し、韓国の中高生と歴史博物館などを視察し交流を図るというものである。最近の両国間の情勢を鑑み、また、高校生ということもあり、参加を危ぶむ声があった。役員会でも議論があり、主催者側に趣旨紹介を求めた。

このような一連の流れの中で感じたことは、私たちが知ったつもりでいる歴史とは、実は真実の一部であって、その理解や解釈も、同じ日本人でさえ実にさまざまであるということであった。

何故か。私達の知る歴史とは、日本人だけではなく、どの国の方々にとって、結局は、人の手や解釈が多々加えられているからではないだろうか。そう考えると、議論や評価が容易ではなく、扱いかたにも慎重さが求められる事は容易に分かる。

このような理解の上で、我々は歴史から目を背けたり、人の意見を鵜呑みにすることなく、自らで理解に努め考えをしっかりと持つこと、このことこそが重要になるのではないだろうか。